

令和6年4月号(310号)
(皇紀2684年) 毎月1日発行

新風

編集人 川畑賢一

発行人 魚谷哲央
年間購読料 2,000円

維新政党・新風本部
〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下ル
第2ふじビル4階
TEL.075-708-3700 FAX.075-708-3800
<https://shimpu.jpn.org/>
otayori@shimpu.jpn.org

コロナ以後のわが国の世情と政情

筑波大学名誉教授
古田博司



ドイツ哲学「普遍」の崩壊

近代の日本人は「普遍」を信じてきたのだが、それにはドイツ哲学の影響が大きかったことが明らかにしつつある。「普遍」が最早ないことに気づき始めたのが、平成十四年(二〇〇二年)ごろだったやうに思われる。東京大学社会科学研究所の会議室に集まった政治思想の専門家たち(荏部直・関口正司・都築勉・松田宏一郎・米原謙・和田守・平石直昭)が、「日本にお

ける日本政治思想研究の現状と課題」といふ題で、大学の授業で何をテキストにするかの座談会をしてきたが、何を読んでも特殊になつてしまふと告白する。私も学生たちから「先生、普遍はあるのでせうか」と質問をされるやうになつた。そのとき、「あ、もう今の教科書は使へないな」と思つた。さらにマルクスを読んでも、学生たちは「おかしい」と言ひ始めるやうになつた。平成十六年(二〇〇四年)ごろのことだつた。

実は欧州では一九七〇年代から始まつてゐた。フランスの哲学者、リオタールの『ポスト・モダンの条件』(水声社)には「大きな物語は終はつた」と書かれてゐた。すでに日本よりも三十年前に欧州では「普遍」は崩壊しつつあつたのである。詳しいことは日本戦略研究フォーラムの「進歩史観の終焉・普遍信仰の崩壊・国家理性の確立」に記し

ておいた。もつと簡単に言へば、ドイツ哲学の賞味期間(近代)が終はつたのだと言へる。今年、WILL誌四月号の対談で、イスラーム研究者の飯山陽氏にこの話をすると、「馬鹿々々しい。イスラームにはイスラームの『普遍』があるのです」と、一笑に付されてしまつた。だが当時は、そこまで先見できなかったの

で、私は時熟するのを待つてゐた。時熟すれば、小さなコラムに書かれた批判でも、あつといふ間に世情に広がる。その間、知識人と言はれる人々の価値観は確実に動揺を始めてゐた。読売新聞主筆代理の老川詳一氏が、『新国策』誌で「最近どうもヘンド。生産力が増せば生産関係が壊れるといふのは、本当だと思ふが」といふやうなことを書いてゐた。特別編集委員の橋本五郎氏などは『しんぶん赤旗』で、「自分はマルクス信奉者だ」と、カミングアウトしてしまつた。内心の動

揺を抑圧しようと思つたのかもしれないが、二人とも唯物史観と進歩史観を「普遍」としてゐたことは明らかではないか。進歩史観を信じてゐたといふことは、ヘーゲル弁証法を信じてゐるのとセットである。ヘーゲルは言ふ、「否定の否定で動き出す、ステージは持ち上げられる」、これを「アウフヘーベン」(止揚・揚棄)といふ。馬鹿々々しい、「否定の否定は肯定」にきまつてゐるのではないかと七十年代の欧州知識人たちは、悟つてゐた。それよりさらに前、四十六年刊行の原書『西洋哲学史』で、数学者のラッセル氏は、「ヘーゲルの三つ組み運動」と言つて、弁証法をバカにしてゐた。アインシュタインは、「酔つぱらひのたは言」だと、一笑に付して、ヘーゲルの徒カール・ヤスパースのナチ時代、イギリスへの亡命を手助けしなかつた。

と信じてゐる人々、これが戦後、「革新派」市民派↓世界市民派↓リベラル」を変へていつた左翼の人々の真の姿であつた。革命ではなく理性の進歩によつてステージを上げようとするので、私は彼らを「隠れマルクス」と呼ぶことにした。革命で共産主義体制にもつていけると信じる人々は、ただの「マルクス」である。この定義で言へば、いまの自民党の議員のほとんどが、老川祥一氏や橋本五郎氏とおなじ、隠れマルクスである、と言へよう。故に、現在の派閥解消と言ひつつ、政治資金収支報告書不記載、キック・バックなど、近代の古いしきたりで他派閥をたたきまくつてゐる自民党の真相は、隠れマルクス同士の「内ゲバ」であらう。

安倍晋三氏が不慮の死を遂げて以来、自民党内の隠れマルクス(リベラル)は、意識的、無意識的を問はず、自己の思想を実現しだした。いはく、多文化共生主義、LGBT理解増進法、反日タカリ

もう一つ、唯物史観を信じ、弁証法を「普遍」

進歩史観、唯物史観の崩壊

しんぶんしゅう
新風驟雨

▼扱、パソコン・スマホを駆使する新時代の若者に傳へておく事がある。テレビも新聞も「拉致」を「ら致」と表記して、「罹災」を「り災」と表記して、何の疑問も感じてゐない。パソコン・スマホなら直ぐに「拉致」「罹災」と出る。テレビや新聞が拘泥する国語表記は、戦後體制への執着そのものではないか。新聞では今上陛下の御製を「そちの旅路に会へる人びとの笑顔を見れば心のみぬ」と記し、「(仮名遣いと振り仮名は言文のまま)」と括弧書きで記してゐる。歴史傳統を大事にするとはどういふ事か。昭和の憂國老人としては、この異常こそが我が國の異常の原點であると考へてゐる。▼勿論國語表記を街宣で訴へる必要は全くない。しかし國語表記の異常が戦後體制の異常を如實に表してゐる事を熟知してゐなければならぬ。即ち維新政黨・新風は、我が國の異常に目撃した若者の集ふ黨でなければならぬのである。それ故に結黨以來我が維新政黨・新風は「目撃めよ日本」と叫び「取り戻せ! 國家の誇りと日本の誇り」を訴へて来た。恬として恥ぢぬ力強い主張であり、魂の雄叫びである。▼パソコン・スマホ世代からすれば昭和の憂國老人世代の時代遅れ感感事實である。それでも憂國老人の最後の望みとして、我が黨の将来を擔ふ若者が結黨時の「魂」を引継いでくれる事を只々願ふばかりである。(小)

本紙目次

- 一頁: コロナ以後のわが國の世情と政情
- 二頁: 党声明他

今起こつてゐる政情の眞の意味

今起こつてゐる政情の眞の意味